

主催 アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)
日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)



日時 **2011年11月11日(金)**
13:00~16:15(開場:12:30)

場所 **東京大学農学部弥生講堂**
(東京都文京区弥生1-1-1 ※裏面地図参照)

定員 200名(申込先着順)

参加費 無料

通訳 日英同時通訳

後援 (公社)日本河川協会 / 応用生態工学会 / (財)河川環境管理財団
日本水フォーラム / (財)リバーフロント整備センター / (株)建設技術研究所
中国河川・流域再生ネットワーク(CRRN)
中国水利水電科学研究院(IWHR)
韓国河川・流域再生ネットワーク(KRRN)
韓国河川協会(KRA) / 韓国建設技術研究院(KICT)
ヨーロッパ河川再生センター(ECRR) / 英国河川再生センター(RRC)

プログラム

※プログラムは一部変更の可能性がございます

- 13:00-13:05** 開催挨拶
- 13:05-13:15** ARRNガイドラインver.2の趣旨及び内容紹介
- 13:15-14:30** 2011年ブリスベン川洪水被害への対応、
及び豪州政府が取り組む河川・湿地管理と再生
※各講演25分
Alastair Mcharg
(オーストラリア・National Water Commission 水計画部長)
- 台湾における最近の都市河川再生の取組み
Shaohua Marko Hsu(台湾・逢甲大学教授)
- 韓国における水辺環境再生のための技術開発
～連続ブロックシステムの事例から
Sukhwan Jang(KRRN事務局長/韓国大真大学教授)
- 14:30-14:40** 休憩
- 14:40-16:15** 汾河における河川再生
～洪水防御と生態復元に向けた氾濫原の再生
※各講演25分
全体討議45分
Aizhong Ding(北京師範大学教授)
- 流域治水～樋井川からのイノベーション
島谷幸宏(九州大学大学院教授)
- 全体討議(座長:玉井信行ARRN会長)
- 16:15** 閉会

減災と環境保全の視点から 都市河川再生を考える



申し込み方法

E-mail: arrn-forum@rfc.or.jp / FAX: 03-3523-0640

必要事項(氏名・所属・住所・電話・FAX・E-mail・JRRN会員/非会員)を明記の上、E-mailまたはFAXでお申込み下さい。(申込〆切日:11月8日(火)17:00)

| | |
|-------|--|
| 会員種別 | JRRN会員 / 非会員 (いずれかに○をお願いします) |
| ふりがな | |
| 氏名 | |
| 所属団体名 | |
| 連絡先 | 自宅 / 所属先 (いずれかに○) 住所: 〒 — TEL: FAX: Email: |

※記入された個人情報は、ARRN及びJRRNが主催する講演会等のご案内に利用させて頂く場合がございますので、ご了承願います。

問い合わせ先

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)事務局(担当:後藤)
〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階
(財団法人リバーフロント整備センター内)
TEL: 03-6228-3862 E-mail: info@arrn.net

会場のご案内

東京大学 弥生講堂

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内
・東京メトロ 東大前駅(南北線) 徒歩1分
・東京メトロ 根津駅(千代田線) 徒歩8分

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)とは?

「第4回世界水フォーラム」(2006年3月・メキシコ)の自然再生に関する日本・中国・韓国3ヶ国合同分科会において、河川・流域再生の情報交換ネットワークやデータベースの構築、及びアジア地域の特性に対応した河川・流域再生技術指針の作成に向けたアジア諸国連携の必要性が提唱されました。この分科会提言を引き継ぎ形で開催された『第3回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム』(2006年11月・東京)の場で「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」が誕生し、また各国窓口組織として「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」、中国(CRRN)、韓国(KRRN)の3-RRNが同時設立され、2011年11月で各ネットワーク設立から5年を迎えます。



<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/map.html>

※本フォーラムは河川整備基金の助成を受けて開催致します。

※本フォーラムは土木学会継続教育(CPD)制度のプログラムとして認定されています。

